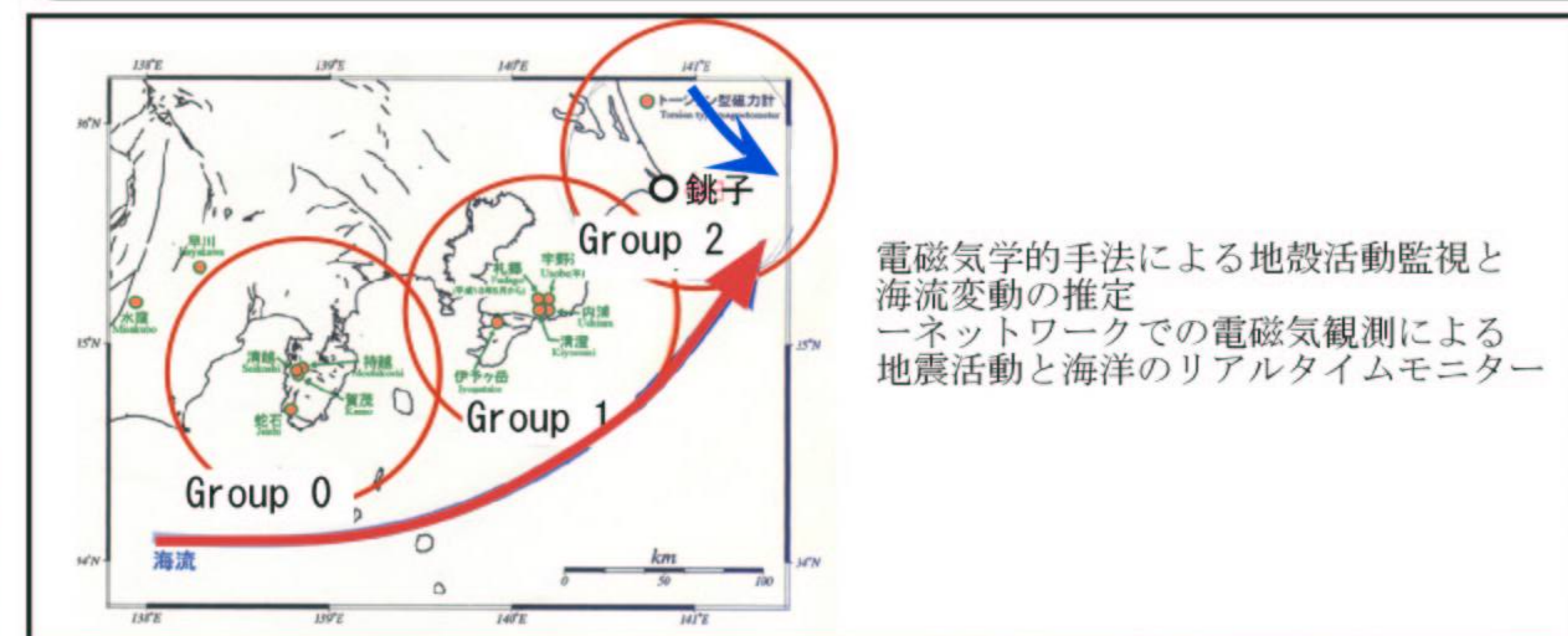
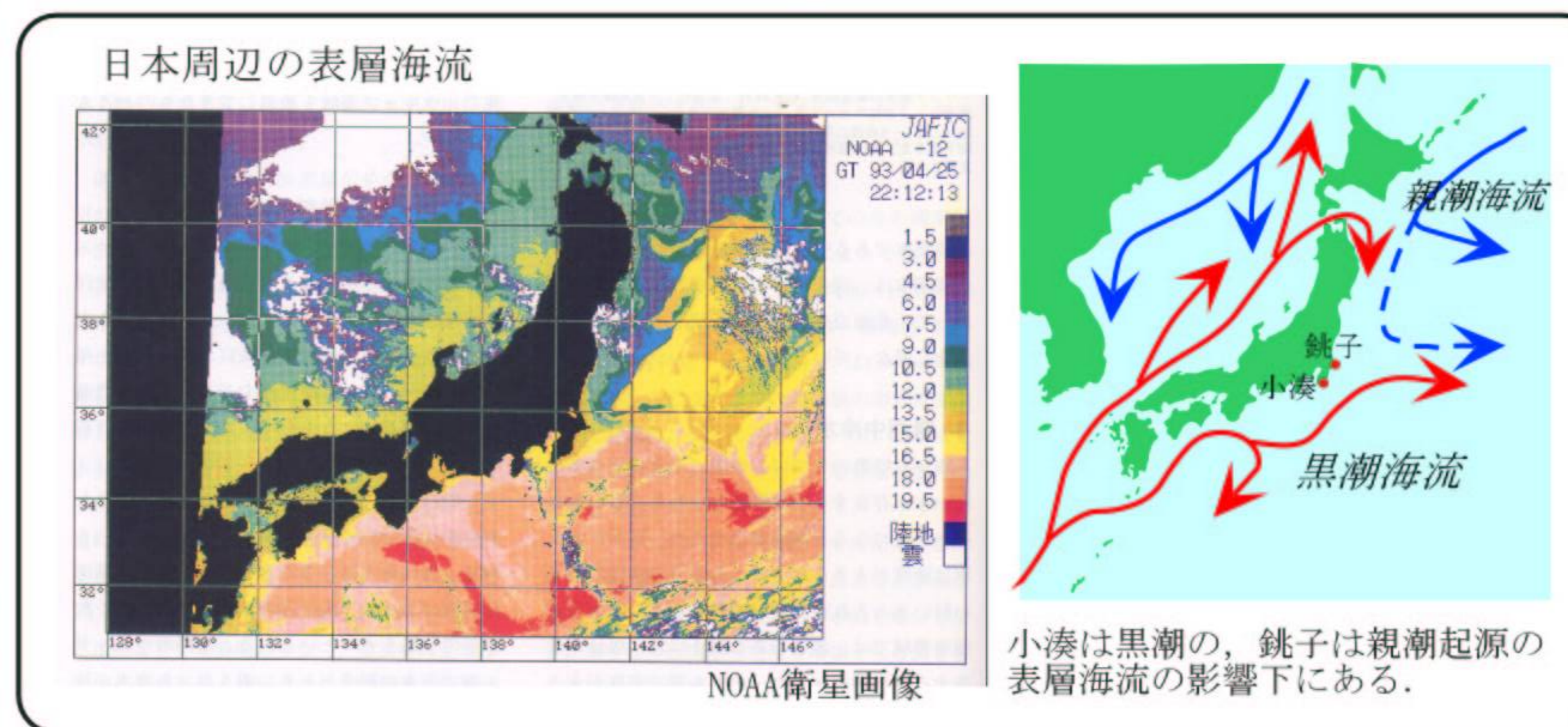


海洋バイオシステム研究センター共同研究テーマ

「さまざまな時間スケールの海洋変動に対する海洋バイオシステムの応答様式の解明」

研究概念図

親潮・黒潮変動と過去・現在の生物の変化から海洋の環境変化が生物に与える影響を探る

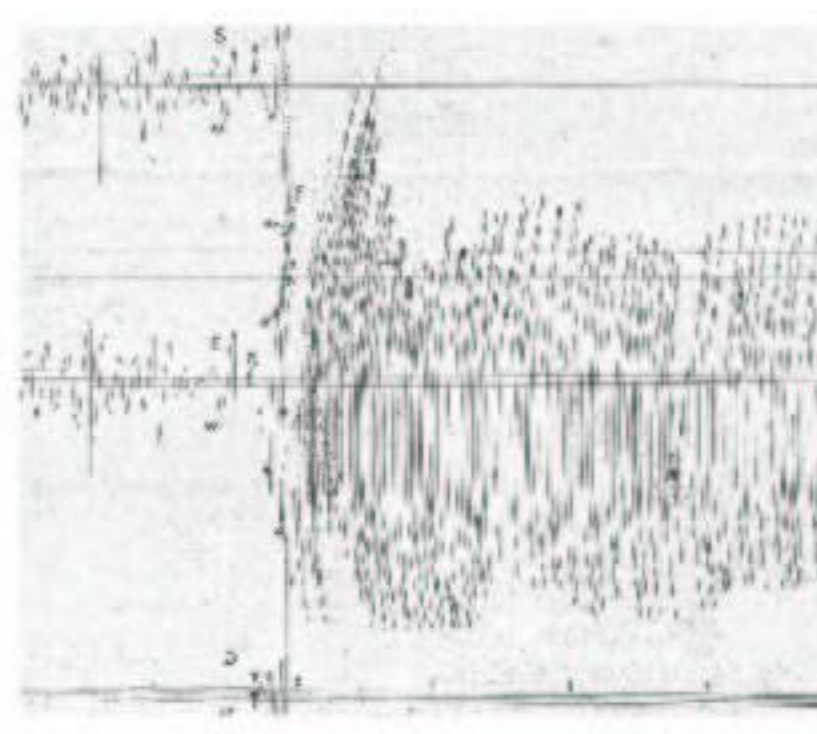


銚子, 小湊の役割と部門の研究内容

	銚子 一親潮の影響を読む一	小湊 一黒潮の影響を読む一
現海洋 古海洋 システム解析	それぞれの地域の生物相と海流変遷との関係を考察する 周辺の地層に含まれる化石から、過去の海流変遷を読む 現在と過去のバイオシステムの統合	
研究のゴール 一海洋の環境変化によって、生物はどのような影響を受けるのか? についての将来予測		



写真は琉球列島西方の海底火山の熱水噴出域から深海探査機「しんかい2000」での探航の際採集された原始的なフジツボ類のミョウガガイ科の新種。約2億年前の中生代に近縁な化石が見つかる。熱水噴出孔にはフジツボ類の全4垂目に現存する最も原始的な分類群がいて、数千万年以前の様子をタイムカプセルで見ていることになる。



1923 (大正12) 年9月1日11時58分、東京本郷の東京帝国大学地震学教室で記録された関東地震の地震計の記録である。三浦半島西方の相模湾海底を震源とし、マグニチュード7.9。相模湾北岸・房総半島南端での木造住宅全潰率が30%を越え、現在の震度にすれば7に相当するという。震災予防調査会(1925)から引用。